

指定管理業務評価結果書

1 施設の名称等

(1) 公の施設の名称	児童館（5館）、児童センター（1館）
(2) 指定管理者	所在地 倉敷市笹沖180番地 名称 社会福祉法人 倉敷市総合福祉事業団 代表者 理事長 藤澤 徳久
(3) 公の施設の所管部署	保健福祉局子ども未来部子育て支援課
(4) 評価対象期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで

2 総合評価結果

(1) 市の評価	<p>児童館・児童センターは、地域の子どもたちの健全な遊び場として、地域における児童福祉の重要な拠点の役割を担っている。</p> <p>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、5類に移行するまでの間はイベント等については感染症対策に留意しながら、乳幼児とその保護者、小中学生や中高生などそれぞれの年齢層に合わせたイベントを実施したりする等、工夫を凝らした運営が実施できていた。5類移行後は、徐々に本来の運営に近づくよう引き続き感染症対策には努めつつ、工夫をしながら実施を行った。その結果、児童館・児童センター6館合計で令和4年度の1.35倍となる約23万人の方に利用者していただき、コロナ禍前の状態に向け着実に回復をみせている。</p> <p>こうした中、令和5年度の評価に当たっては、「事故防止・防犯対策」、「備品の管理」、「こども等の意見を表明しやすい環境づくり」の三点を重視して評価を行った。</p> <p>事故防止については、病気、負傷等のマニュアルを整備したり、緊急連絡先を明示したりする等の基本的な対応ができているほか、全職員が救急救命講習を受講する等事故防止の対策ができて</p>	総合評価
	S	

いる。遊具についても、職員が毎日清掃・点検するとともに、専門業者による点検を年に1度は行い、不備があれば速やかに改善している。防災防犯についても、マニュアルを整備し、避難訓練を実施しており、対策が徹底されている。また、令和5年度中に令和6年度から策定が義務付けられている安全計画を策定しており、今後はこの計画に基づき、また、必要に応じて改定を行いながら、引き続き子どもたちが安全安心に利用できるよう、しっかりとした運営を行ってみたい。

備品の管理については、安全かつ適正な事業運営のためにもしっかりとした対応が必要である。各館においては、毎日、利用者が使用するおもちゃをはじめとする備品については、毎回利用終了時に点検・消毒を行うとともに、各備品の保管場所を決めることで適正な管理ができています。また、各館とも管理簿を備えており、定期的に管理簿と照合することで適正にチェックを行っている。今後も利用者が安心して気持ちよく利用できるよう、備品の適正管理に努めていきたい。

こども等の意見を表明しやすい環境づくりについては、児童館・児童センターが地域の子どもの健全な遊び場であると同時に、安心して過ごすことのできる「居場所」という側面も有していることから、気兼ねなく意見を表明しやすい環境づくりは重要であると考えます。複数の職員による、来館時や各部屋での声掛けについては各館共通して実施できており、利用者とのコミュニケーションが図られており、気軽に話しやすい雰囲気作りができています。また、これに加え、意見箱を設置し、直接意見が言いづらい利用者への配慮もなされています。また、館によっては運営の一部を小学生ボランティアに任せるなど、積極的な取り組みもあり、引き続きこども等の意見を表明しやすい環境づくりに努めていきたい。

<p>(2) 指定管理者の自己評価</p>	<p>地域の児童が心身ともに健やかに育つための環境づくりを行うとともに楽しくふれあえる場、安心・安全に過ごせる居場所を提供し、児童福祉の向上に努めました。</p> <p>保護者の子育て支援にも取り組み、相談対応や情報提供を積極的に行いました。</p> <p>・児童館で共通に取り組んだ事業</p> <p>児童福祉週間の一環として、各児童館の特色を活かした行事「ごー！ごー！！じどうかん」は感染症対策を講じながらそれぞれの地域の現状に応じた形で行い、参加者に楽しんでもらうことができました。</p> <p>・おでかけ児童館事業</p> <p>地域のイベントや親子クラブ、放課後子ども教室等、児童館を利用しにくい地域へ出向いて工作や遊びを提供する「おでかけ児童館」を6児童館あわせて342回実施しました。</p> <p>また、6館合同で「キッズカーニバル」を実施した他、「スポーツフェスティバル」や「くらしき健康福祉プラザまつり」、「倉敷市こどもまつり」に参画しました。</p> <p>・地域の健全育成の環境づくり</p> <p>児童館活動の内容を広報くらしきや児童館だより、ホームページ等でPRし、児童館活動に関する理解や協力が得られるように努めました。</p> <p>・ボランティアの育成</p> <p>児童館を利用する子どもがボランティアとして活動できるよう支援しました。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症に留意しながら、学生ボランティアや実習生を可能な限り受け入れて次世代育成に努めました。</p> <p>・休日保育に関する事業</p> <p>倉敷児童館と倉敷北児童センター内において、休日に保護者の就労等で家庭での保育が困難な時に乳幼児を預かる事業に取り組み、児童館のノウハウを生かした保育を実施し、高まる保育ニーズに応えました。</p> <p>・倉敷北児童センターの体力増進指導に関する事業</p> <p>遊びや行事（運動を主とする。）を通して体力増進を図ることを目的として、子どもが運動に親しむ習慣を形成しました。</p> <p>今年度は、真備健康福祉館職員の指導により、遊びの中に体</p>
-----------------------	---

育種具を用いた運動を実施し、参加者は楽しく身体を動かしました。

また、体力増進指導を通して子どもの社会性を伸ばし、心と身体の健康づくりを図りました。

・玉島児童館の地域子育て支援拠点事業

玉島児童館3階に常設しているつどいの広場では、おおむね3歳までの児童及び保護者を対象として、子育てに関する相談や援助、地域の子育て情報や親子交流の場の提供等を行いました。

0・1歳つどいのひろばや、2・3歳遊びの広場、誕生会、ベビーマッサージ、音楽親子遊び、身体計測等の行事を実施し、親子のふれあいを深めました。子育てに関する相談では、必要に応じて関係機関への連絡も行いました。

・岡山県児童館連絡協議会の運營業務

「岡山県児童館連絡協議会」の会長職と運営事務局を担い、研修会の開催や児童館のネットワーク作りに努めました。

・自主事業

「ふれあいタイム」は、小学生の異年齢交流として様々な年齢の人たちと交流できる行事を実施しました。

クラブ活動に代えて、発達段階に応じた年齢別行事を実施し、親子や友達と交流する機会の充実に努めました。

「おもちゃバンク」は、感染症対策を講じつつ、交換又は譲渡の方法を改善しながら引き続き実施し、おもちゃの再利用の促進に努めました。

大学生の実習や体験学習を受け入れ、次世代育成に努めました。

事業団職員を講師とし、児童や保護者を対象とした「運動遊び」、「親子ヨガ体験」、「育児相談・身体計測」、「福祉体験」等、利用者のニーズに応えられる企画の実施に努めました。

また、児童館職員が講師として、真備健康福祉館にて親子ふれあい遊びを実施しました。

〔各館で個別に取り組んだこと〕

倉敷児童館

有城荘、ふじ園と合同で実施した「一周年記念くらしきすこやかプラザまつり」では、吹奏楽やスタンプラリー等で楽しい

	<p>時間を過ぎました。また、有城荘と「ボッチャ体験」、ふじ園と「交流花植え」を実施し、それぞれ楽しく交流できました。</p> <p>倉敷北児童センター</p> <p>自由に参加できる季節のモチーフ探しやお正月の絵馬に一年の抱負を書いたり、運だめしをしたりして、楽しい遊びを季節ごとに実施しました。幼児親子から高校生までが好きな時に参加でき、継続利用のきっかけになりました。</p> <p>水島児童館</p> <p>毎月「〇〇に挑戦」と題して挑戦種目を決めて行事を行い、繰り返し挑戦する機会を設けました。最高記録者の名前を掲示することで、自分の名前を書くために何度も挑戦し上達していく姿が見られ、達成感を味わう機会の一つとなりました。</p> <p>児島児童館</p> <p>託児行事「子育てホットタイム」を月1回のペースで開催し、簡単な作業で気軽に参加できるように内容を工夫しました。参加した保護者から充実した時間を過ごせたことを感謝され、和やかな時間を提供することができました。</p> <p>玉島児童館</p> <p>「わらべうたで遊ぼう」を季節ごとに実施し、古くから伝わるうたで乳幼児親子のふれあいを深めました。また、「こまで遊ぼう」「けん玉で遊ぼう」「皿回し」の伝統文化を取り入れた行事を実施し、幅広い年齢で気軽に参加する中で交流を図りました。</p> <p>真備児童館</p> <p>乳幼児親子で絵本を楽しむ行事「おはなしでてこい」を実施したり、真備地域の主任児童委員と連携して、「おはなしの会」も行いました。大型絵本を見たり、ペープサートを楽しんだりして、親子でおはなしに親しむ姿が見られました。</p>
(3) アンケート結果の概要	6 児童館分をまとめてグラフ化し、提出します。

	名 称	利用者数（人）		特記事項
		令和 5 年度	令和 4 年度	
(1) 利用実績	倉敷児童館	53,371	34,647	R4 休館 23 日間
	倉敷北児童センター	49,201	30,776	R4 休館 25 日間
	水島児童館	28,890	26,570	
	児島児童館	21,193	18,595	
	玉島児童館	41,968	29,117	
	真備児童館	34,214	30,077	
	合 計	228,837	169,782	
	開館日一日あたりの 平均利用者数	130.2	99.3	
	(2) 事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童館で共通に取り組む事業として「ごー！ごー！！じどうかん」を地域の現状に応じた形で実施 ・ 6 館合同で、「キッズカーニバル」を実施し、「スポーツフェスティバル」や「くらしき健康福祉プラザまつり」等のイベントに参画 ・ 地域のイベントや親子クラブ、放課後子ども教室等、児童館を利用しにくい地域での「おでかけ児童館」を実施 ・ 遊びを通して健全育成を図る体力増進活動、文化・創造活動、食育活動の促進 ・ 子ども同士の交流及び日常生活の支援 ・ 子どもと保護者が自由に交流できる場所や子育てに関する情報の提供 ・ 関連機関の協力を得ての子育て相談やふれあい活動の実施 ・ 児童健全育成のための広報活動 ・ 地域組織（母親クラブ）活動の支援 ・ ボランティアの育成、実習生や体験学習の受け入れ、地域住民がボランティアとして活動できる場を可能な限り提供 ・ 配慮を必要とする子どもへの支援 ・ 休日保育事業（倉敷児童館・倉敷北児童センター） ・ 体力増進指導に関する事業（倉敷北児童センター） ・ 地域子育て支援拠点事業（玉島児童館） 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・岡山県児童館連絡協議会の運営業務 ・自主事業（ふれあいタイム、おもちゃバンク、ボランティアや実習生受け入れ、異年齢又は年齢別の行事、事業団内での講師派遣交流）
(3) その他	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の5類移行後も引き続き利用者に手洗いや換気等の感染症対策への協力を求め、机の配置の工夫や消毒作業等により環境を整えながら利用者を受け入れ、行事を実施しました。 ・小学校、幼稚園の学校評議員会や子ども・子育て支援審議会等、関係機関の各種委員を積極的に努め、地域の子育て支援団体とも連携しました。 ・令和4年度に新築移転した倉敷児童館と倉敷北児童センターでは、引き続き備品配置や運用ルールの検討を重ね、利用者の安全確保に努めながら開館しました。 ・能登半島地震で被災した石川県七尾市へ子ども支援に出向き、能登地区の子どもの居場所支援「じどうかんあそびのマルシェ in ななお」にスタッフとして参加し、被災地の子どもたちに工作や遊びのブースを提供し、楽しい時間を過ごしてもらいました。

4 収支

(1) 収入 (指定管理者の収入)	総額	169,732千円
	市からの指定管理料（委託料）	168,276千円
	利用料金	1,009千円
	その他の収入	447千円
(2) 支出 (指定管理者の支出)	総額	172,073千円
	主な支出	
	人件費	127,452千円
	光熱水費	8,194千円
	修繕料	1,414千円
	備品購入費	0千円
	消耗品費	2,650千円
施設管理委託費	7,012千円	
その他経費	25,351千円	